

2023 年度 小学校英語教育センターシンポジウムの報告

2023 年 10 月 14 日(土)に 2023 年度の小学校英語教育センターシンポジウムが開催された。今年度は、学校現場において ICT の積極的な活用を通じた授業づくりがもとめられる昨今の状況を背景に、「言語活動を通して資質・能力を育成する小学校外国語教育の授業の在り方について考える—ICT の効果的な活用を通して—」をテーマとし、文部科学省視学官の直山木綿子先生の基調講演と、小学校において ICT 活用の先駆的な外国語教育の実践を行っているお二人の先生より、実践報告をしていただいた。また、今年度は、本センターが、公益財団法人教科書研究センターと連携し取り組んでいる学習者用デジタル教科書を用いた小学校外国語科の授業のあり方に関する研究にもとづく実践の報告を兼ねた内容とした。今回も、昨年度同様、会場の対面参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催したこともあり、県内外の現職教員、教育関係者及び学生など計 202 名（来場者 51 名と Zoom での視聴 151 名）の方々にご参加いただいた。以下、簡単に、シンポジウムの内容を報告する。

まず、鳴門教育大学附属小学校教諭の青山祥子先生より「言語活動の充実を目指した ICT の効果的な活用—「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に着目して—」と題する実践報告をしていただいた。具体的には、デジタル教科書、Microsoft forms、学習支援アプリ Meta Moji 等の ICT 機器を活用することで、1) 家庭学習や中間指導などにおける児童一人ひとりのニーズや状況に応じた学習が実現されること、2) 自己評価や振り返りの場面で児童の学びの実態が可視化され、教師の授業改善や的確な指導・支援が行えるとともに、児童自身の学びへの自覚と自己調整が促されること、そして、3) 以上の個別最適な学びの成果が、授業の単元導入や言語活動における協働的な学びに活かされ、同時に、協働的な学びの成果が個別最適な学びに還元されること、を報告された。

次に、宮崎市立西池小学校指導教諭の岩切宏樹先生より「子ども一人ひとりが達成感を味わえる外国語の授業—ICT の活用で支える個別最適な学び—」と題する実践報告をしていただいた。岩切先生は、児童一人ひとりの指導を充実させる難しさとともに、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる言語活動を通じた指導の難しさについて言及され、その対策として、児童が聞き手意識をもつ目的・場面・状況の設定と、生徒指導の 3 原則（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する）を活かした活動の設定が必要な条件であることを提案された。その条件を満たすべく取り組まれた、個別最適な学びの実現のための、ICT を活用したメモの作成や語順を意識して書く活動、協働的な学びの実現のための「ペア学習のルール」の提示、さらに、見方・考え方を働かせる言語活動として、ICT を活用した主体的に聞く活動について報告された。

そして、文部科学省視学官の直山木綿子先生より「外国語教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善—個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に踏まえて—」と題してご講演をいただいた。直山先生は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、指導計画の作成と内容の取り扱い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実などの方向性について、令和 5 年度実施の全国学力・学習状況調査における意識調査の結果や外国語授業の実践事例を踏まえ、また、ICT の活用と関連づけながら分かり

やすくお話したださった。特に、ICT 機器の活用については、その活用だけが先走るのではなく、言語活動やその指導の充実、効率や効果を図るための ICT 機器の活用でなければならないことを強調された。

最後に、直山先生をコーディネーターに、参会者とともに全体討論の時間をもった。英語を使用する必然性を創る教師の役割、言語活動を充実させる ICT 機器の活用、児童が自身の学びを選択することの重要性など、さまざまな視点から意見交換が行われた。

以上、小学校外国語の授業における ICT の効果的な活用について、その方向性や課題を考える貴重な機会となった。今後の小学校外国語の方向性を分かりやすくご説明いただいた直山先生を始め、先駆的实践をご報告いただいた岩切先生と青山先生、そして、本シンポジウムにご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げたい。ありがとうございました。

(小学校英語教育センター 山森 直人)